

授業特別協力者(ゲストスピーカー)報告書

テーマ	: 西安秦始皇兵馬俑博物館の展示物を通じた秦の統一戦略理解と中国語を用いた質疑応答による中国語運用能力の向上
授業特別協力者名	: 王 勇 氏
実施日時	: 2021 年 6 月 28 日 (月) 3 時限
担当教員名	: 山本 明
授業科目名	: 中国語 (a) I
実施場所	: オンライン教室
履修者数	: 9 名

実施結果

<事前学習>

王勇部長に対するヒアリングの為の中国語運用能力の向上と、訪問先の秦始皇兵馬俑博物館の事前学習の 2 点を行った。

中国語運用能力の向上については、学生に将来の職業選択も視野に入れた上で、旅行会社の部長としての王勇氏に対する質問項目を考えさせた。その上でひと月をかけて中国語に直し、発音練習をする過程で、文法やスピーキングスキルの習得を図った。質問項目としては、コロナの前後で旅行会社の被った影響と対応、今後の見通し、および中国人の旅行者の日本における消費行動の分析と見通し、旅行会社が経済格差の課題に対して行いうることなど業務上の知見を問うもののほかにも以下のようなものが出された。中国企業と比して日本企業が一番欠けているもの、交渉のあり方の差など経営風土に関するもの、日本人の中国における就労状況、小説や漫画、アニメ等で日本では中国の歴史や説話を題材としたものがあるように中国における日本の歴史や物語を題材とした作品とその受容状況、中国人や日本人に相互の違いを説明する際の留意点など異文化コミュニケーションに関するもの等である。

秦始皇兵馬俑博物館については、秦が全国を統一にあたって行った標準化戦略を、文字や度量衡、律令などの点から学習させた。

<当日の授業実践報告>

まずは一時間にわたり博物館の解説を受けた。事後の授業アンケートには、世界史の教育や文獻上の知識と、実際に 6000 体あまりの兵馬俑がある空間に身を置くことで感じたものは全く異質であるとの記述があった。一体一体全て異なる兵馬俑の細部まで確認した上で、それらが視界の限り広がる集団生命体のエネルギーを体感した所以と考えられる。また王部長の友人である博物館職員から提供された修復の際の画像、および空気に触れて退色したものの復元画像など、観光では得られない文物に関する知識も得ることができた。

その後 30 分程度、学生が中国語で質問し、王勇氏が日本語で質問に答える機会を設けた。質問は一週間前に王勇氏に届けてあったため、詳細な数値データや具体的ケースなどが披露された。

日本企業に欠けているスピード感については Huawei の退職年齢を例に挙げ、伝統的商習慣の変化については国の政策変化を紹介し、女性の化粧習慣の変化などは家族を例にあげ、コンテンツビジネスについては日本の平安時代が舞台となるロマンスがヒットした実例などが披露された。授業アンケートの「本に書かれていることとは違う事実を知ることができて有意義な機会になりました。」との文言からも、変化が激しくメディアバイアスの大きな中国に対しては、一次情報の重要性を実感できたと考えられる。

それらを現地の文物の中で説明するというデータリッチな授業環境はオンライン授業の可能性と考えられる。アンケートの「オンライン上でも臨場感のある研修ができるという事実に感銘を受けました」との文言の通りである。

中国語運用能力の観点から言えば、自分の中国語が通じたことで自信を得、更に中国文化に興味を持って中国の作品を視聴する気持ちになったとの記述があり、学習のモチベーションが上がったことが確認された。異文化理解という観点から言えば、中国との比較を通じて自己理解が進み、BATH に代表される中国のイノベーションを推進する先端企業に追いつくためには、若者の力をどのように生かすべきなのか、自身の問題として考える記述があった点でも、この形態の授業の有効性が確認できよう。

授業の様子はこちらから

<https://www.youtube.com/watch?v=akVkdmc1J3A>



兵馬俑一号坑にて